

朝ぼらけ羽ごろも白じろの天あめの子が

乱舞するなり八重桜ちる

歌 意

夜がしらじらと明けてくる頃、薄紅色の八重桜が散るさまは、まるで白い羽衣を着た天女が乱舞しているようです。

掲出歌集 『舞姫』明治39（1906）年1月  
初出 「明星」明治38年11月号「新詩社詠草」（晶子27歳）

